

現代芸能『獅子と仁人』

獅子の舞とダンス、声とピアノの生演奏、そしてAR表現が融合したストリーミング現代芸能。
沖縄宜野座からYouTube Liveで3日間限定の無料配信。 #shishitohito



沖縄宜野座の創作エイサー^{ラック}LUCKと、東京のアートグループ^{グラインダーマン}GRINDER-MAN、ビジュアルデザインスタジオ^{ワフ}WOWのコラボレーションによる現代芸能プロジェクト『獅子と仁人』（ししとひと）を、^{きのざそん}宜野座村文化センターがらまんホールからストリーミング配信で発表します。

テーマは、伝承とテクノロジーの温故知新

現代芸能『獅子と仁人』は、身体表現とデジタルテクノロジーの融合による、オンラインでのみ完成する舞台作品かつ映像作品です。獅子舞、ダンス、生演奏、CG合成によるAR表現がオンラインでリアルタイムに融合し、観客は舞台上に立っているような臨場感の中で作品世界を体感することができます。

コロナ禍において芸術文化活動が深刻な危機にある中、本作では、多彩なジャンルのアーティストの協働により、ストリーミング配信ならではの芸術表現の新たな可能性と鑑賞体験を追求しています。獅子とコンテンポラリーダンスによる舞、3Dプリンティングによって刷新された金銀獅子の頭部、声とピアノの生演奏。さらにリアルタイムでCG合成するAR表現、一人称視点のカメラワーク、イヤフォン推奨のサウンドデザインなどを駆使。ライブという舞台芸術の緊張感を活かしつつ、テクノロジーと実験性を積極的に取り入れた表現領域へと挑みます。

主催：株式会社イッカク

共催：宜野座村文化のまちづくり事業実行委員会（がらまんホール）

助成：芸術文化振興基金 

開催概要

現代芸能『獅子と仁人』

YouTube Liveストリーミング配信

特設サイト：

<http://shishi.grinder-man.com>

配信日時：※オンライン開場は1時間前

11月6日（金）18時開場

<https://youtu.be/D1-TQQNRGXY>

11月7日（土）19時開場

<https://youtu.be/IA7ax7MKG6w>

11月8日（日）13時開場

<https://youtu.be/J-QgFoxXbLE>

配信会場：

宜野座村文化センターがらまんホール

（沖縄県宜野座村字宜野座314-1）

ハッシュタグ：

#shishitohito

広報・取材に関するお問合せ

宜野座村文化センター がらまんホール（担当：小越）098-983-2613 garamanhall@gmail.com

プロジェクトに関するお問合せ

株式会社イッカク（担当：仲之條紗織）saori.nakanojo@1kc.jp

現代芸能『獅子と仁人』^{ししひと} – 3つの見どころ

獅子舞、ダンス、生演奏、AR表現がリアルタイムで合成する映像表現

本作は、デジタルテクノロジーを積極的に取り入れた舞台表現であり、超越的な映像表現でもあります。金銀の2体の獅子とダンサー2名の動き、声とピアノのサウンドは、リアルタイムで解析され、その変化によって、演者とCGとの合成がARにより生成されます。さらに、一人称視点のカメラワークや、イヤホン推奨のサウンドデザインなどにより、ストリーミング配信ならではの新たな鑑賞体験を世界に向けて同時配信します。



WOWによるCGデザイン
©2020 WOW inc. All Rights Reserved.

伝統芸能を未来に向けてデザインする。テクノロジーを通じた伝承と温故知新へ

本作に登場するのは、沖縄の伝統芸能「エイサー」を継承する「創作エイサー」、そしてアジアに広く存在する伝統芸能「獅子舞」。日本の伝統的な芸能の特徴は、時代の異なるさまざまな芸能が、混成し、現代にまで継承されているところにあります。本作における獅子とコンテンポラリーダンスによる舞い、3Dプリントによる頭部と斬新なビジュアルを纏った獅子もまた、時代の異なる表現の共存により生み出されていると言えます。それは伝統から未来に向けた「今・ここ」にある「現代芸能」と言えるかもしれません。



創作中の獅子舞

コロナ禍に芸術文化の意義を問い直す。地域と分野を超えた次世代のコラボレーション

2020年に世界を襲った新型コロナウイルスは、わたしたちの生活を一変させました。芸術文化の分野でも、制作方法や発表手段の変更が余儀なくされ、社会における作品や表現の存在価値も変容しつつあります。一方で、私たちには新たなコミュニケーションの方法も開かれています。本作では、オンラインでの持続的な創作環境によって、芸能、ダンス、音楽、映像、造形デザイン等の様々な領域で活躍するアーティストのコラボレーションが実現しました。地域や分野を超えて協働し、世界の人々に配信すべく制作された本作からは、アーティストの止むことのない探究心と、未来を形作ろうとする道標を見ることができます。



創作エイサーLUCKによる公演の様子

配信会場・共催



宜野座村文化センター がらまんホール

2003年、宜野座村という沖縄北部の人口6000人の村に開館した400席の多目的型劇場。ここでしかできない芸術を発信すること、人と人が繋がる”文化の広場”であることを目指し、世界的なアーティストから地域の芸能まで幅広い演目を魅力とする。舞台芸術のみならず、美術展や食フェスまで幅広く開催し、地域各所に出向いてワークショップやお出かけ公演も行う。2020年5月には、ソーシャルディスタンスを保つ客席「ガラガラでも満席」の写真をSNSに投稿。コロナ禍の劇場のありようを問いかけたことで話題になった。

<https://garaman.jp/sf/>

現代芸能『獅子と仁人』を手がける沖縄・東京のプロダクションチーム

出演



創作エイサー LUCK

2007年沖縄中央学園のエイサーサークルとして結成し、卒業後に創作エイサーLUCKとして旗揚げ。沖縄県本島北部・宜野座村を拠点に活動。沖縄の地域芸能として親しまれてきたエイサーや獅子舞、沖縄の先人たちが築いた文化・琉球の心を大切に、新たなスタイルでの表現に取り組んでいる。これまでに国内のフェスティバル等のほか、中国、アメリカ、韓国、タイ、シンガポール、マレーシア等でも公演。エイサー指導やCM出演等の多岐に渡る活動も展開。

<https://sosaku-eisa-luck.wixsite.com/mysite>

演出・振付・企画制作



GRINDER-MAN (アートグループ)

演出家のタグチヒトシと振付家の伊豆牧子をメンバーに、演出・振付を駆使して「いま・ここ」の身体表現を生み出す。国内外で舞台作品やメディアアート作品を発表するほか、ライブツアー演出やプロモーションのクリエイティブプランニング、映像の振付およびキャスティングまで幅広く活動。演出・振付・キャスティング等により、幅広いクライアントへの表現提供や受託業務も多数手掛けている。

<https://grinder-man.com/>

ビジュアルデザイン



WOW (ビジュアルデザインスタジオ)

東京、仙台、ロンドン、サンフランシスコを拠点に、広告における多様な映像表現から、様々な空間でのインスタレーション映像演出、メーカーと共同で開発するユーザーインターフェイスデザインまで、幅広いデザインワークをおこなう。さらに、オリジナルのアート作品やプロダクトを国内外で多数発表。作り手個人の感性を最大限に引き出しながら、ビジュアルデザインの社会的機能を果たすべく、映像の新しい可能性を追求し続けている。

<https://www.w0w.co.jp/>

コンセプトメッセージ

日本では、太古より豊穡への感謝と安寧への祈りを願う舞が存在します。自然からの恵みと人智を超えた畏怖が隣り合わせるこの世界で、人々は舞踊により願いを立て、厄災を乗り越えてきました。

わたしたちは、なぜ舞い、踊りはじめたのか。そして、わたしたちは、どこに行くのか。色を、音を、言葉を得たわたしたちは、喜び、悲しみ、怒り、信じ愛して、生きて死ぬ。その営みはいつの世でもかわらないに違いない。伝承の起こりに思いを馳せ、継承を学び、そして古きに新しきを取り入れた発信が、わたしたちのこれからを示す道しるべになるのではないかと考えました。

伝統芸能とメディアアート表現、沖縄と東京、演者と観客、オンラインとオフライン。時と場をまたぎ、手を取りあって呼応しあうあたらしい交歓の姿が、わたしたちの明日への希望になることを願っています。

タグチヒトシ (GRINDER-MAN)



出演者・デザイナープロフィール

出演 (ダンス)

皆川まゆむ (コンテンポラリーダンサー、振付家)



10歳でタップダンスに出会い、その後クラシックバレエ、ジャズダンス、モダンダンス等を学ぶ。幅広いダンス表現を生かし、国内外の舞台公演、ミュージックビデオ、雑誌広告等で活躍。シルク・ドゥ・ソレイユ登録アーティストでもあり、演出家のインバル・ピント、マシュー・ポーン、ダミアン・ジャレ、ピチエ・クランチェン等の作品にも参加。2013年、インバル・ピント&アブシャロム・ボラックダンスカンパニー (イスラエル) のカンパニーダンサーとして活動。帰国後には自身の創作活動を展開、2017年に『SARU』をイスラエル、フランス、カナダ、日本にて上演。

<http://mayumu.net>

出演 (ダンス)

森井淳 (ダンサー/j.a.m.Dance Theatre主宰)



大学在学中にダンスと出会い、卒業後、ラバンセンター (ロンドン) でダンスディプロマを取得。2002年、振付・演出の相原マユコらとj.a.m.Dance Theatre を結成し、国内外で公演を行う。これまでに振付家イニャーキ・アズビラーガ、ルーシー・ゲリンや、モノクロームサーカス、Nibroll 等の舞台作品に出演。近年の出演作に、ダミアン・ジャレ + 名和晃平『VESSEL』(2018)、シディ・ラルビ・シェルカウイ振付『プルトゥ PLUTO』(2018)等。ダンスクラスやワークショップで講師も務め、ミュージックビデオやミュージカル、舞台作品等の振付も行う。

音楽・出演

畑中正人 (作曲家、サウンドデザイナー)



独学で作曲、ピアノ、音響学を学び、1995年より札幌市を拠点に活動。「娯楽や芸術としての音」、そして社会の中で本当に必要とされ機能する「音のデザイン」をテーマに、20年以上に渡り、様々な舞台、イベント、CMなどで作品を手がける。東京スカイツリー「天望回廊」のサウンドシステムの企画・構成、演出(2012)、第10回札幌国際短編映画祭のテーマ曲制作(2015)から、公共空間、電子機器の操作音などのサウンド、ワークショップやレクチャーの実施まで、その活動は多岐に渡る。

<http://www.hatanakamasato.net/>

声・出演

鎌野愛 (作曲家、ヴォーカリスト)



東京都と八ヶ岳を拠点に、歌や声で出来る表現の可能性を追求し、本格クラシックからバンドまで幅広い分野で活動を行う。2016年2月まで「ハイスノナサ」のボーカル、キーボードとして活躍。テレビアニメ「東京喰種トーキョーグール/A」の主題歌(楽曲: österreich)やEテレ特集「桜守の遺言」をはじめ、数多くのテレビ番組や企業イベント、広告等に歌声を提供。2019年2月には、作曲、作詞、歌唱、鍵盤の全てを手掛ける自身初のソロアルバム「muonk」をリリース。

<http://kamanoai.com/>

獅子造形

松岡象一郎 (特殊メイク、特殊造形アーティスト/株式会社ジーエム代表)



光ファイバーやシリコンなどの最先端の素材を取り入れ、CM、映画、音楽、ファッション、ブランド広告などの様々なメディアにおいて、特殊メイクや衣装、造形物、ディスプレイ等の創作を手掛ける。京都の西陣織に編み込んだ光ファイバーを、シリコン造形物に使用する日本初の表現スタイルも確立。特殊メイクを主軸に、造形やファッションなどの様々なジャンルを融合させた独自の世界観を有するアーティストとして、個展開催のほか、国内外の展覧会にも参加している。

<http://gm-atelier.com/>

現代芸能『獅子と仁人』ストリーミング配信

獅子舞：創作エイサーLUCK 演出・振付：GRINDER-MAN ビジュアルデザイン：WOW

主催：株式会社イッカク

共催：宜野座村文化のまちづくり事業実行委員会 (がらまんホール)

助成：芸術文化振興基金 

出演 (獅子)：鳥袋拓也、浦崎直史、儀間勇樹、上江洲安秀 (龍神伝説)

出演 (ダンス)：皆川まゆむ、森井淳

構成・演出・カメラ：タグチヒトシ

演出・振付：伊豆牧子

ビジュアルデザイン：WOW

音楽・出演：畑中正人

声・出演：鎌野愛

獅子造形：松岡象一郎

獅子造形アシスタント：中村希世、百瀬仁郎、山本日和

獅子造形データ制作：株式会社TAPP

衣装：中村実樹

映像演出プログラム：高鳥光

映像演出システム：谷口勝也

会場ディレクション：小越友也

舞台監督：小山田サトル

照明：藤原康弘

音響：福岡功訓

映像送出および映像配信：永瀬裕康、弘重雄一、高橋美里、住田真、奥那覇洋

配信音声：小林高治

演出助手：小山柚香

企画：株式会社イッカク

制作：田村孝史、仲之條紗織、天野悠二

広報：砂川和也、崎谷果梨、比嘉千穂

企画協力：伊藤耕太

協力：菅原一樹、森下祐紀、平野尊治、桐山登士樹

龍神伝説

株式会社ジーエム

テレビマンユニオン

ライノスタジオ

株式会社ストロベリーメディアアーツ

株式会社Flysound

株式会社ハレトケ

富山県総合デザインセンター

八ヶ岳スタジオ

NOIPLUS